

2月のバングラデシュ短信で、最近、バングラデシュで頻発しているハルタルについての情報を発信したが、現地では4月も引き続きハルタル騒動が起き続けている。幸い、現時点では日系を含む工場には、まったく実害はなく、ほとんどの工場が通常操業を続けている。もちろんハルタル参加者の商店などの略奪行為などは皆無である。その点で、ハルタルは中国などの暴動とは、明らかに違うと言える。ハルタル参加者は主に交通手段の遮断を行い、社会を混乱に陥らせようとしている。その結果、対欧米向け生産工場などでは、物流部門での混乱が出荷納期に影響し始めているようである。またハルタル当日の昼間(午前8時から午後6時ごろまで)は、主要道路の交通が遮断されてしまうので、ダッカを訪れた人々はホテルや工場内に缶詰となり、外に出ることはできない。これは各工場の受注営業活動に大きな障害となっている。私も、4/09の午後2時ごろの便で帰国予定であったが、当日はハルタル実施が宣告されていたので、前夜に空港近くのホテルに移動しておき、当日早朝、そのホテルから裏道を通って空港に入った次第である。

私は前日夜、ホテルのテレビで現地のニュース番組をじっと見続けていたが、数百人のデモ隊が国旗を掲げて大通りを行進する様子や、警官隊と衝突する場面が繰り返し放映されていた。現在、バングラデシュでは、このような異常事態が進行している。政府が鎮静化に努めているので、やがてハルタルも終息するであろうが、ハルタルがバングラデシュの顔の一面であることもまた事実である。以下に4/02～09までの状況を報告する。

1. 4/02(火)、ハルタル

BNP(バングラデシュ民主主義党)とその野党同盟 18 党は、拘留されているリーダーと活動家の釈放、政府の辞任を要求、そして最近の「大量虐待」に対する抗議のため、4/02(火)夜明けから夕暮れまでの全国 12 時間ストライキを呼びかけた。また野党 18 連盟はヘファジャト・エ・イスラムが計画した4/06のダッカアーチの状態を見守るといった。新しく結成されたグループが以前から警告しているように、もし政府がそれを妨害し、聖職者たちがストライキを呼びかければ、BNP の率いる野党 18 連盟はストライキを支持すると発表した。ストライキ前夜、首都各所での放火、爆破、投石が行われた。明け方から夕暮れまでの全国 12 時間ストライキの直前、デモ隊は月曜日警察を襲い、車(ほとんどがマイクロバス)に火をつけ、首都各所やその他の地方で、爆破事件を起こした。



イスラミ・チャトラ・シビルとBNPの率いる野党同盟 18 党が呼びかけた夜明けから夕暮れまでの 12 時間ストライキで、少なくとも 49 人が捕まり、35 人がけがをした。バングラニュース取材班の報告によると、午前 8 時頃、市内のムグダ地区でストライキを支持したデモがモヒラ・ダルにより繰り出されたとき、警察は二人の活動家を連行した。また、警察は午前中ジャトラバリ・ドライパールでカクテル爆弾を爆発させようとしたシビル・ケンドレを捕まえた。

2. 4/03(水)、ハルタル

バングラデシュのイスラミ・チャトラ・シビルは、そのリーダーであるデロワール・ホセイン・ヤシン・アラファトの即釈放を要求して、4/03(水)、ラングプールとラズシャヒの 16 の地区で夜明けから夕暮れまでの 12 時間ストライキを呼びかけた。チャトラ・シビルの文化部長は「シビルたちの無差別殺人や再拘留の名の下に、リーダーたちを拷問していることに抗議し、その党総裁の即釈放を要求してストライキを呼びかけた」と言った。左の写真は、4/02(火)早朝デモ隊たちが鉄路をはずしたためコミッタで脱線したチッタゴン行きのトゥルナ・ニシタエクスプレスの6両。この事故で30人以上の乗客がけがをした。鉄道は不通になり、何千人もの人々に影響した。右の写真は、ボグラタウンのファテ・アリ・レール・ブリッジの枕木に火をつけている様子。鉄道関係者や目撃者は、列車が田に落ちないで、溝や起伏した土地に突っ込んでいれば大惨事になっていただろうと言っている。鉄道関係者は「脱線を「破壊活動」と呼んでいる。



3. 4/06(土)、ハルタル

4/06(木)、ヘファジャト・エ・イスラムは、プロ開放組織同盟がロングマーチに対する先制ストライキを取りやめなければ、「我々は我々の宗教活動の一部として、4/06、ダッカに向けてロングマーチを行なうことを決定した。我々のプログラムは政府に対してのものではない。しかし、政府はその政党の人々やほかの政党の人々を使ってストライキを呼びかけている。もしストライキを中止しなければ、我々は日曜日(4/07)から無期限ストライキを強制実行する」との声明を発表した。

ヘファジャト・エ・イスラムは4/06にロングマーチを計画している。またバングラデシュ・イスラミ・ジョテ と 27 のプロ開放組織連合はジャマート(イスラム協会)の反イスラム活動への抗議とその政党の廃止を要求してストライキを呼びかけている。

対立の政策から発生した先例のない展開で、国はプロジャマート・ヘファジャト・エ・イスラムがロングマーチを実行し、それに対抗してプロ開放組織連合がマーチを止めさせようと全国的にシャットダウンをしたので、国中が手詰まりになってしまった。ライバルが突然、進路を阻止したので、シナイノカムランギチャールで流血衝突が起き、プロ政府活動家が死亡し、数人がけがをした。警察と目撃者は、本日のロングマーチと市内のグランドラリーの前夜、この地域のヘファジャト・エ・イスラムの活動家、アワミ連盟そして警察たちの間で起きた三つ巴の衝突で起きた銃撃のため、アワミ連盟の活動家が殺され、数人がけがをしたといった。



4. 4/08(月)、ハルタル

過激なイスラムグループのヘファジャト・エ・イスラムは、4/07(日)、様々な場所でロングマーチが妨害されたとして、木曜日の夜明けから夕暮れまでの 12 時間ストライキを呼びかけた。



左の写真は、BNP、ジャマート(イスラム協会)、ヘファジャト・エ・イスラムのプロストライキ活動家が、ヘファジャト・エ・イスラムが呼びかけた4/08(月)のストライキを前に、4/07(日)の午後、様々なところで6台の車に火をつけ破壊した様子。右の写真は、ヘファジャト・エ・イスラムとチッタゴンを本部とする新しくできたイスラムグループに呼びかけられた4/08(月)の全国 12 時間ストライキを前に、首都圏のカクライル地域で乗客がバスを燃やす様子。

イスラムグループのヘファジャト・エ・イスラムは、4/07(日)の記者会見で、「ストライキは平穏に終わらせ、暴動や破壊行為は行なわない」といったが、この発表の数時間後6台の車に火がつけられた。火がつけられたのはラジャバグ・ポリス・ラインの前、バングラデシュ銀行付近、バサボの仏教寺前、カクライル交差点、ファキラプール及ムグタ地域である。地元の人々や消防民間自衛関係者はこの事件を報告した。ストライキ前の暴動を避けるために、政府は4/07(日)の夕方から首都にバングラデシュ国境警備隊(BGB)を配置した。

5. 4/09(火)、ハルタル

野党主流のバングラデシュ民主主義党(BNP)は、8人のリーダーが刑務所に送られたことに抗議をし、全ての野党政党員を釈放することを求めて、4/09(火)の午前6時から36時間ストライキを呼びかけた。18の連盟野党もこのプログラムをサポートする予定である。彼らはここ数週間のいわゆる「大量虐待」を止めさせること、そして暫定政府の復活、そして第一に首相の辞任を要求している。3つのダッカの裁判所に、ミルザ・ファクルール・イスラム・アロンギールを含め10人のBNPリーダーが送られた後すぐにストライキが呼びかけられた。

4/09(火)の朝、北の地方でプロストライキ分子が道を占領し、ストライキの間ボゴラのデモ隊がトラックの運転手を殺した。4/08(月)の夜、その地方の様々な場所で約50台の車が破壊され、5台の車に火がつけられた。ストライキのサポーターたちはシャジャンプールのノエミレに丸木を置き、ボゴラ-ダッカハイウエーをブロックし通行止めにした。爆破、逮捕、車への放火が起き、首都やガジプールで最初の数時間閉鎖になっていた。

ヘファジヤト・エ・イスラムは、鉄道やハイウエーをブロックし、4/08の全国12時間ストライキの間、与党のものや警察と衝突し、少なくとも60人がけをした。ヘファジヤトの怒りを警察とジャーナリストがまともに受け続けているので、少なくとも7人の警察と4人のジャーナリストがこれらのけが人に含まれている。警察最前線部隊とテレビチャンネルの地元の事務所も襲われた。ダッカとシレット、チッタゴン、ノアカリそしてチャンドプール間の電車サービスもヘファジヤトがブラムバリア・タウンで線路にバリケードを置き妨害している。彼らは全国の重要なハイウエーもブロックしている。

以上